

会議記録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和4年度第2回高松市社会教育委員会議
開催日時	令和5年2月14日(火) 午後1時30分～3時10分
開催場所	高松市役所11階 114会議室
議題	(1) 報告事項 (ア) 高松市生涯学習市民意識アンケート調査結果の概要について (イ) 地域と学校との協働体制の強化について (2) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	山神委員、大村委員、岡委員、笠井委員、松下委員、野上委員、山口委員、合田委員、松田委員(欠席委員0名)
傍聴者	0名(定員3名)
報道記者	1名
担当課及び連絡先	生涯学習課 839-2633

会議の経過及び結果

(1) 報告事項

(ア) 高松市生涯学習市民意識アンケート調査結果の概要について

高松市生涯学習市民意識アンケート調査結果の概要について、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

【問17】「生涯学習の充実、始めるきっかけとして必要なこと」について、約半数が「経済的負担の減少」を挙げている。

高松市として、学びの成果や、生涯学習の充実、生涯学習を始めるきっかけについて、どのような形で公的支援の対象としていくのか。

(事務局)

生涯学習の個人の学びの成果を発表する場合は、重要になってくると考えている。

高松市としては、学習意欲や、次の可能性を見つけられるような場を提供していくことで支援を行っている。

生涯学習センターでは、自身の生涯学習の成果を生かしたいという方に講師をしていただく「学習成果発表の場事業」を実施している。

インプットだけではなく、アウトプットしていくということも生涯学習の視点として非常に大切なものになるので、このような学びの成果を発表する場づくりについても、更に周知啓発に努めていきたい。

(委員)

生涯学習を始めるきっかけとしてのハードルに対する経済的負担の問題はあるが、まずは、そこに至るまでの環境整備の施策が、今後求められてくるのではないかと。

会議の経過及び結果

(委員)

本アンケートの集計においては、年代によってライフキャリアが異なるため、単純集計では傾向が非常に読みにくい。

回答者属性などを踏まえた集計を行うことで、より戦略的な形につなげることができるのではないか。

(委員)

属性毎に分析すると具体的なところが見えてくる可能性もあると思うがどうか。

(事務局)

【問5】「生涯学習の活動場所」及び【問6】「生涯学習に関する情報の入手方法」については、年代毎に分析を行っている。その他の項目については、必要に応じて分析していきたい。

(委員)

高校・大学の施設を利用した公開講座を増加させ、市民がより分かりやすいような情報の発信方法を検討していただきたい。

(委員)

これからは、「人生100年時代」であり、健康と良好な人間関係と生涯教育が大事であると言われている。

生涯学習をすることで、心身の健康や良好な人間関係につながり、自分の中で新たな学びがあるのではないか。

(委員)

これから推進していく必要があるリカレント教育とリスキリング教育は、生涯学習・生涯教育とリンクする部分が強く出てくるため、今回の調査結果の見方や分析の仕方は非常に重要であると考えている。

(イ)「地域と学校との協働体制の強化について」

地域と学校との協働体制の強化について、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

保護者が学校と地域をつなぐ役割であることをとても感じている。

現在、PTAの加入率が下がっている状況の中、PTA活動への参加率もかなり少なくなっている印象がある。「協働する」とはどういうことであるかを、保護者、学校の先生、地域が理解しなければいけない。

広い地域のコミュニティではなくても、保護者同士が話をする場は必要であると考えている。

地域学校協働活動はとても大事であるが、まず現状を把握した上でないとやりにくさを感じる。

教育者以外の人間が学校に入るということは、子どもの成長にとって非常に良いことであり、それを確立し、実現できるのであれば、子どもや地域にとっても素晴らしいことである。

(事務局)

学校と地域とをどうつなぐかが重要であり、学校と地域で話ができるようなシステムの準備が必要であると認識している。

(委員)

小学校と中学校をつないだり、地域と学校の協働体制を強化するためには何ができるのか、その現状を把握していただきたいという意見もいただいた。

今こそ、地域との関係性は非常に重要であり、まずは、学校教育課と生涯学習課の協働が必要であると感じている。

(事務局)

昨年、市立小・中学校を対象に「地域と学校との協働に関するアンケート調査」を実施した結果、各地域におけるコーディネーターの存在が少ないという現状が分かった。

また、地域の方に何かをお願いしたい場合、コーディネーターを通すことができれば大変助かるという意見があった。しかし、地域と学校の連携を強化すると、かえって地域や学校の負担が増えるのではないかという意見もあった。そのため、地域と学校の連携・協働が子どもたちのために大切だということについて時間をかけて丁寧に説明していく必要がある。

(委員)

コーディネーター配置後の協働本部は、市内の各小学校へ配置すると決めているのか。

(事務局)

モデル校区を選定し、できる学校から実施していきたい。全校にコーディネーターを配置し、本部を設置するかどうかは、地域の実情を見ながら対応していく。

(委員)

地域学校協働本部というのはどのように設置していくのか。

(事務局)

学校の中に本部を作るのか、コミュニティセンター等が中心となるのか、いろいろなパターンが考えられる。必ず本部を設置しなければいけないことはなく、地域の実情に応じて設置していきたい。

(委員)

コーディネーターの配置を急ぐ必要があるだろう。

地域や保護者への負担といったマイナスイメージを払拭した上で、上手に間を取り持つことのできる人材を見極めることが重要である。

学校単位、地域単位でいろいろな取組を行っているが、それを知る機会が少ない。アナウンス方法を工夫することで、多くの方に活動のメリット、デメリットを知っていただき、参加しやすくしていくことも大事である。

高松型コミュニティスクールに関しては、新しい考えを持った若い世代のパワーを投入することで、大きく変わるかもしれない。

(委員)

コーディネーターに対して、謝金を支給するなど行政からの支援も検討してほしい。

(委員)

コーディネーターが不在の地域も多いため、まずは、コーディネーターを育成していただきたい。

また、どのような人がコーディネーターにふさわしいのか、具体的なケースを想定しながら考えていただきたい。

(委員)

コーディネーターには、地域の中で子どもを支えていくという役割と、学校現場の中で一人一人の子どもに大人が向き合う学校体制を作る役割とがあると考えている。両方の役割を十分理解している方をコーディネーターに据えていかないといけない。

人選については、スクールソーシャルワーカーにも入ってもらう等、人材育成について検討いただきたい。

また、コーディネーター同士がつながることができるコミュニティを作り、養成研修を行うことで地域格差をなくしていく仕組みづくりが必要である。

(委員)

現場での経験から、コーディネーターの選出については、専門職だけにこだわらず、子どもたちに寄り添うことのできる心の広い人材が求められていると感じている。

(委員)

コーディネーターの役割等を始め、教育民生常任委員会からいただいた提言について、生涯学習課と学校教育課で協働しながら、今後の方向性を検討していただきたい。

(2) 「その他」について事務局及び委員に意見等がないか確認する。

取り組んでいることで、紹介したい内容がないか確認する。

(事務局)

令和5年度生涯学習センターの取組について事務局から説明する。

その他意見等はなかったため、以上をもって、本日の会議を閉会することとした。

以上